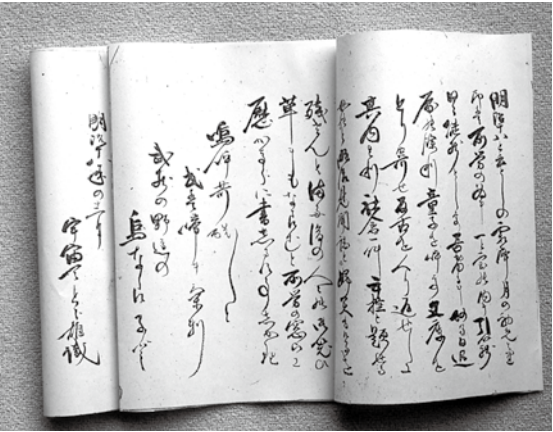


柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



『むさ志野の涙』冒頭部分
提供：武蔵国分寺跡資料館(国分寺市教育委員会)



むづいむづいと民は泣いた。 一五〇年前の「御門訴事件」その2

増田恵津子(御門訴事件を伝えてゆく会)

公民館だより第224号(令和2年1月1日発行)で、150年前に起きた御門訴事件について、その概要をお伝えしました。今月号では、増田恵津子さんに、人物に焦点をあてながら、史料と史跡について、紹介していただきます。

神山平左衛門編著 『むさ志野の涙』(明治18年)

この史料には御門訴事件の発端から経過が書かれており、名主たち村役人から小前百姓までの心情と行動を読みとることが出来ます。事件を考える上で、欠かせない史料です。この史料が、一九六八年刊行の『武蔵野市史 続資料編1』の中に収められ、だれもが読むことができ

るようになってから、事件の研究が大いに進みました。写真は最初の部分ですが、読み下し文で紹介します。

最後にあるのは、31歳の内藤新田神山平左衛門が用いた独特なペンネームです。

『むさ志野の涙』の本文の冒頭では、村の所持高を調べ上げた結果が書かれ、次に明治2年11月に武蔵野新田の村々が出した「嘆願書」が続きます。そ

退屈のあまり童子を呼びて文庫をとり寄せ反古を繰り返せしに、其の内より社倉一件の控えと題せるものと、明治見聞誌とのふみ有る事を(中略)後世に残さんと、また後の人々のお笑い草にもならんと所労の窓下に慰めがてらに書き記す事しかり。

武蔵の野辺の 鳥ならねど 明治十八年の十二月 宇宙天とら雄識

して、その後の県とのやり取り、門訴の決行、厳しい弾圧など、明治4年3月までの経過が綴られています。

御門訴事件に関する記述の最後の部分では、事件当時の知事古賀定雄が、晩年、物乞いのような姿でさまよったという風聞が書かれています。その後は、幕末の武州一揆の詳しい顛末が淡々と書かれています。

さて、門訴の時には16歳だった平左衛門は、品川県庁に向かう途中、空腹のため食事を摂ろうと中野で寄り道をした間に淀橋で迂回して浜町へ向かった仲間たちと合流してしまったり、自身の体験を書いています。深夜の県庁前で嘆願し続ける百姓たちに県の兵士が襲いかかり、51人が逮捕され、双方に負傷者が出た時の、臨場感あふれる描写などは、後から仲間にも聞いたことです。その後の苛酷な取り調べや犠牲者の様子は、他の史料でも同様です。

門訴後、県が12力村の高札場に「告諭」を掲げ、社倉の必要性とそれを邪魔する者として、野中新田名主の高橋定右衛門、関前新田名主の井口忠左衛門、上保谷新田名主の平井伊左衛門、内藤新田名主の治助など8人の

事件のその後

この言葉がすべて、その場で発せられたものかについては疑問があるにしても、御門訴事件の後に、平左衛門が自由黨員となったことは確かです。ほかにも、自由黨員になった事件関係者が国分寺市に数人います。

村役人の名をあげて逮捕を始めたり、若し平井虎之助や井口庄司は逃げたけれど、病身の定右衛門は2月12日に牢死したこと、逃げた関野新田の島田国蔵(他の史料では邦蔵)がさまざまに身なりを変えて弾正台へ訴えたことなどを書き残しています。定右衛門の葬式では「落涙致さざる者なく、実に気の毒千万」と記されています。

また、宿預けになっていた治助が病弱なため、看病に行っていた高杉六兵衛が拷問の末に32歳にして牢死したことも詳しく書かれています。拷問された理由には、明治2年12月20日の真蔵院での「議定書」調印の時に病身の治助の代理で調印したことによるものでした。翌年4月、死体の引き取りを命じられた村人が遺体を伴い帰宅したときの記述を読み下し文で紹介いたします。

「家内親族一同死人へ取りすがり、なき騒ぎ実はその声家中へ響き渡り、涙を流し頭を垂れて誰一人も一言の言葉もなし(中略)：自分は涙を払い憤然声を発し、家内の者を叱りつけ、一同よ、何故にかく泣きさわぐぞ、六兵衛事故の為に死にたるものにあらず、十二力村人民の難渋を救うために死にたる者なり。然らばかえって喜ぶべき。このあり様は実に何事ぞや、世の中を見よ。(後略)」

彼らが、自由民権運動に加わったことに、事件が影響していると推察されるのではないのでしょうか。

忠左衛門は、この地域の中で事件と最も深く関わった人物といえます。その理由は三つあります。

一つ目は、県への「建言書」の提出(明治2年9月)です。この中で、忠左衛門は、「万民塗炭の苦しみの根本は、物価高値の憂い」にあるという現状をさまざまに分析しています。特に、江戸から武士がいなくなり下肥や馬糞が激減したことで肥料が値上がりし、商人が買い占め売り惜しみをしているという武蔵野新田の問題をあげ、肥料値下げの規則を作ることや、外国貿易にも「改会所(あらためかひしよ)」を建て、管理することなどを提言しました。そして、武州一揆や明治2年2月の飛騨の梅村騒動、同年7、8月の信州騒動の風評が伝わったことを記し、この地域ではそのようなことが起こらないように、幸民(富農)が貧民を救うことが大事で、県や政府には諸品値下げの規則を布告してほしいと要望したのです。忠左衛門は新田村の百姓が追い詰められて世直し一揆に走ることを心配していたのです。古賀知事は、この建言書を読んだのでしょうか。

二つ目は、村役人主導の県への訴えの中心となり、長く厳しい取り調べの末、明治3年2月18日に死去していること。

三つ目は、死後建立された彼を悼む倚鐘碑とその案文です。

「倚鐘」とは鐘に寄りかかりもの思いにふけるという意味です。事件を伝える史跡・倚鐘碑

門訴を行った12新田は東西約10km、6市に広がっています。家を守り、村を守るために百姓たちは協力して立ち上がりましたが、このことを説明した記念碑は唯一、関前新田(現武蔵野市八幡町)の井口家の門外にある倚鐘碑だけです。碑の建立が広く呼びかけられたことを示す史料もありますが、すぐにはできず、石碑の裏側に刻名された遺族・村民68人の努力で、明治27年2月に建立されました。五日市街道沿いにあり、誰でもその前に立つことができるのです。井口親子(忠左衛門と庄司)がいかに尊敬されていたかがわかります。

碑文は漢文、348字、「多摩のあゆみ」135号(たましん地域文化財団)などに読み下し文が掲載されています。

碑文の文章の作者は自由民権運動で長く活躍した中島信行です。新田村の大半が神奈川県となった頃の約2年間、その知事であったこともあり、御門訴事件に大いに関心を持ち、いつのことが不明ですが、請われて原文を書きました。その写しは、関前新田だけでなく、近隣地域の旧家に残っていて、「案文」といわれています。ここでは、諸村の人々の「義」を知らせたいと、人々が拷問や厳しい取り調べで亡くなったこと、役人は民のために務めるべきことを471字で記しました。倚鐘碑の碑文は「案文」のままではありませんが、同じ中島によって書かれた実際の碑文にも、その名残りを読みとることが出来ます。

関前新田名主 井口忠左衛門

彼らが、自由民権運動に加わったことに、事件が影響していると推察されるのではないのでしょうか。

忠左衛門は、この地域の中で事件と最も深く関わった人物といえます。その理由は三つあります。

一つ目は、県への「建言書」の提出(明治2年9月)です。この中で、忠左衛門は、「万民塗炭の苦しみの根本は、物価高値の憂い」にあるという現状をさまざまに分析しています。特に、江戸から武士がいなくなり下肥や馬糞が激減したことで肥料が値上がりし、商人が買い占め売り惜しみをしているという武蔵野新田の問題をあげ、肥料値下げの規則を作ることや、外国貿易にも「改会所(あらためかひしよ)」を建て、管理することなどを提言しました。そして、武州一揆や明治2年2月の飛騨の梅村騒動、同年7、8月の信州騒動の風評が伝わったことを記し、この地域ではそのようなことが起こらないように、幸民(富農)が貧民を救うことが大事で、県や政府には諸品値下げの規則を布告してほしいと要望したのです。忠左衛門は新田村の百姓が追い詰められて世直し一揆に走ることを心配していたのです。古賀知事は、この建言書を読んだのでしょうか。

二つ目は、村役人主導の県への訴えの中心となり、長く厳しい取り調べの末、明治3年2月18日に死去していること。

三つ目は、死後建立された彼を悼む倚鐘碑とその案文です。

「倚鐘」とは鐘に寄りかかりもの思いにふけるという意味です。事件を伝える史跡・倚鐘碑

門訴を行った12新田は東西約10km、6市に広がっています。家を守り、村を守るために百姓たちは協力して立ち上がりましたが、このことを説明した記念碑は唯一、関前新田(現武蔵野市八幡町)の井口家の門外にある倚鐘碑だけです。碑の建立が広く呼びかけられたことを示す史料もありますが、すぐにはできず、石碑の裏側に刻名された遺族・村民68人の努力で、明治27年2月に建立されました。五日市街道沿いにあり、誰でもその前に立つことができるのです。井口親子(忠左衛門と庄司)がいかに尊敬されていたかがわかります。

碑文は漢文、348字、「多摩のあゆみ」135号(たましん地域文化財団)などに読み下し文が掲載されています。

碑文の文章の作者は自由民権運動で長く活躍した中島信行です。新田村の大半が神奈川県となった頃の約2年間、その知事であったこともあり、御門訴事件に大いに関心を持ち、いつのことが不明ですが、請われて原文を書きました。その写しは、関前新田だけでなく、近隣地域の旧家に残っていて、「案文」といわれています。ここでは、諸村の人々の「義」を知らせたいと、人々が拷問や厳しい取り調べで亡くなったこと、役人は民のために務めるべきことを471字で記しました。倚鐘碑の碑文は「案文」のままではありませんが、同じ中島によって書かれた実際の碑文にも、その名残りを読みとることが出来ます。

碑文の文章の作者は自由民権運動で長く活躍した中島信行です。新田村の大半が神奈川県となった頃の約2年間、その知事であったこともあり、御門訴事件に大いに関心を持ち、いつのことが不明ですが、請われて原文を書きました。その写しは、関前新田だけでなく、近隣地域の旧家に残っていて、「案文」といわれています。ここでは、諸村の人々の「義」を知らせたいと、人々が拷問や厳しい取り調べで亡くなったこと、役人は民のために務めるべきことを471字で記しました。倚鐘碑の碑文は「案文」のままではありませんが、同じ中島によって書かれた実際の碑文にも、その名残りを読みとることが出来ます。